

はっけん

2010. 4発行

第 39 回 耳の日記念集会 H22. 3. 14

(日) 於：アクロス福岡

○記念講演 映画「ゆずり葉に出演して」 福嶋一生氏

○トークショー「映画のエピソード」福嶋一生氏・津田絵里奈氏

○手話ダンス YOU&I 北野

○恒例記念品抽選会

3月14日(日)アクロス福岡にて、第39回耳の日記念集会が開催されました。

会場も満員で、熱気が伝わってくるような盛り上がりでした。

開会式が終わり、You&I 北野のみなさんによる、手話ダンスが始まりました。

「てんとう虫のサンバ」「今日の日はさようなら」「大きな古時計」「サザエさん」

「地上の星」の全5曲を、踊って下さいました。

歌詞のイメージを手話で表現すると共に、音楽に合わせたダンスを組み合わせ

一糸乱れぬダンスでした。健聴者だけでなくろうあ者の方も一緒に踊っていて

とても楽しそうでした。

You&I 北野の北野先生が、「聴覚に障害のある方が、目で見て分かる、踊って楽しめるように、みんな、手話ダンスを楽しんでいただけたらいいなと思って踊っています」と言われていたのが、印象的でした。

あくまでも、私の個人的な思いですが、

「大きな古時計」の、壊れた時計とおじいさんに対する切ない感情

「地上の星」の、孤独との戦い・生きる力のようなイメージを手話ダンスから受けました。とても心に響きました。

記念講演では、映画「ゆずり葉」に出演された、福嶋一生さんが、「ゆずり葉」の撮影時のエピソードや、裏話など面白おかしく話して下さいました。

約1時間弱の間に何度も会場中が爆笑していました。そのエピソードの中に、恋人役の津田絵里奈さんとの話があり、本当は、尚美役の女性の方が、恋人役だったら良かったと、言われていました。恋人役の津田さんが、横に居らっしゃるのに大丈夫なのかなあと、ドキドキしましたが、福嶋さんの講演の後の、お2人のトークショーの時に、津田さんも、負けずに「恋人役は、背が高くて、カッコいい男性を期待していたのに、演技が下手な福嶋さんだった」とおっしゃっていました。

トークショーでは、早瀬監督のことや、撮影で大変だったこと、今後の展望など色々聞け、また、司会である吉野理事とのやり取りがとても面白く、ずっとステージに釘付けでした。

今回、記念集会に参加して、たくさんのことを学びました。

手話ダンスからは、歌詞のイメージにあわせた表現、手話の選択、置き換えを、また、福嶋さん津田さんからは、私の知らない映画製作の世界や、感情や表情の表現、強弱、人に伝える表現や間の取り方など、「なるほど!!」と思うことがたくさんありました。今後、相手に伝わる手話表現が出来るように、今回、学んだことを生かして、頑張っていこうと感じた耳の日記念集会でした。

福岡手話の会(早良支部) 水町 志保



佐賀県 第51回耳の日記念の集い「ようこそ伊万里へ♪」

桜のつぼみもほころび始めた、3月14日（日）天気にも恵まれ、伊万里市民センターで第51回耳の日記念の集いが開催されました。

第一部は、実行委員長の挨拶に始まり、伊万里農林高校「至誠龍神」の勇壮な太鼓で幕を開け、映画「ゆずり葉」で熱演された庄崎隆志氏を講師に迎え「映画ゆずり葉の裏話」とうテーマで、講演をしていただきました。第二部は、地元伊万里手話の会と伊万里聴覚障害者協会との合同企画・制作サイレントムービー「家政婦はちょこっと見た」の上映とお楽しみ抽選会がありました。



記念講演 庄崎隆志氏



お楽しみ抽選会

・○第一部のメインである庄崎隆志氏の講演。楽しみにされていた方には、期待通りの感銘があったのではないのでしょうか。「若いころの自分の演技はぎこちなかった。」と庄崎さん。《独り芝居》では、指先の微妙な動きまで研究されたテクニックが素晴らしかったです。人は“時”と“努力”によって磨かれていくものなんですね。第二部は話題の？「家政婦は・・・」。伊万里は《耳の日》となると使命感にかられ一丸となって頑張っちゃうんです。伊万里の名所、いかがでしたか？庄崎さんの“裏話”にも匹敵する“9月に冬のシーン撮影！コートにマフラー…”でも、楽しい長〜い収録でした。（川内真由美）

○驚きの寒のもどりから解放され、初春らしい気候の中、耳の日記念の集いを迎えることができました。今まで第48～50回までは「行く」側で参加しましたが、今回「来ていただく」側として参加し感じたことは、この会を開催できるのも手話通訳の方、要約筆記の方、舞台技術の方など本当に多くの方々のご協力に支えられ成り立っているということです。最初から最後まで柔和だった庄崎さんがつたえた「大心・豊心・喜心」という言葉を、大切に胸におさめておきたいと思います。（前川由美子）

・ロビーのあちこちで飛び交う手話での会話、久しぶりに会ったのか抱き合う姿も見られ、みんな笑顔。高校生の太鼓は迫力があり素晴らしく、まだまだ日本は大丈夫！こんなに頑張っている若者がいるんだから。庄崎氏のゆずり葉の裏話は、リアルにもう一度映画を見たようなそんなお得感を感じつつ聞き入った。実際の庄崎氏は本当に若くてびっくり！そして、映画を見ただけでは分からないことを色々知ることができた。パントマイムの指の動きは素晴らしく、指先だけを見つめていると不思議な感覚にとらわれ、まさに映像が頭に浮かぶほどで、機会があればもう一度見せて頂きたいと思った。伊万里手話の会のビデオ上映は、笑いありの絶妙な演技を楽しませてもらい、有意義な一日を過ごせ、この行事関わった全ての仲間へ感謝です。（宮崎若子）

耳の日集会、大盛況！（長崎）

3月7日、第41回耳の日記念集会がありました。

今回の講師は俳優・アーティストとして人気の砂田アトム氏をお招きしました。



砂田さんがステージに登場されるなり、引きつけられるような魅力にあふれた中、講演がはじまりました。

デフファミリーに育ち健聴者アレルギーだったそうです。しかし、アメリカでの留学中にアメリカ手話がわからず、コミュニケーションをとる為に四苦八苦した経験をおして“、聞こえる人が手話をわからないのは当たり前。聞こえない者が教えないと”と考えがかわっていき、健聴者アレルギーが治ったという経験談。手話通訳においては、「座薬…座って飲む薬」「永眠…ずっと眠っている」の例をあげ、言葉通りでは通じなくて大変な事になったり、本当の意味を後で知らされ号泣したなど、通じる通訳の大切さを力説されました。



また、砂田アトムワールドでなくてはならない昔話の読み聞かせでは、休憩時間になったとたん、お客さんが昔話のDVDに集中しあっ

という間に完売するほどでした。最後に、手話の経験年数や資格に関係なく、一緒に学んでいく姿勢こそが大切であり、人格を含めて人材育成をして欲しいという願いで締めくくられました。

後半のアトラクションでは、絵本「はらぺこあおむし」を地元諫早のろう協・手話サークル合同で演じ、あおむしからきれいな蝶になった面々がステージに舞っていました。

半日の短い時間でしたが、ろう者と聞こえる者が一緒になって作り上げた記念集会になりました。

平成21年度熊本県手話サークルわかぎ研修会 「障害者差別禁止条例ってどんなこと」

～地域の聴覚障害者と共に歩むために～

日時：平成22年2月7日（日） 10:00～15:30

場所：熊本大学工学部223教室

内容：

☆講演1「障害者の権利条約～多様なコミュニケーション手段と合理的配慮～」

講師；内閣府参与 障害者制度改革推進会議室室長 東 俊裕氏（熊本学園大教授）

☆手話による「絵本の読み聞かせ」（「てとてとてんとうむし」サークル）

「きつねのお客さま」「どろぼうがこう」の2話

☆講演2「聴覚障害者が望むものを考える」

講師；九州聴覚障害者団体連合会理事長 松永 朗氏

☆ミニミニワークショップ「差別って何だろう」

わかぎ」の研修会は、2回目の参加である。いつも楽しみにしている手話による絵本の読み聞かせが今年の研修でもあった。昨年初めて聞いて見たのは、野田さんの「手ぶくろを買いに」の読み聞かせ。優しく柔らかい手話、表情にぐんぐんと吸い込まれ、その世界に入り込んでいった。さらに、語りの素晴らしさ。今年は何と2つの読み聞かせがあり、堪能する事ができた。

第1話の「きつねのお客さま」。ゆったりと

して繰り返しのある分かりやすいお話でした。語りの方との間の取り方、難しい手話と語りのタイミングが本当に上手く取れていた。最後の場面は、ほろりときて、狐の優しさと勇気が伝わってきた。

第2話は、「どろぼうがっこう」。このお話は、知っていたが、1ページが長くどんな表現をされるかなと楽しみだった。どろぼう被りで登場した野田さん。もうそれだけで絵本の世界に入り込んでいった。いろいろな顔の個性あふれる泥棒の生徒達を見事に表現。顔の向き姿勢、手の動きで1人4役をそれぞれに表現されていた。絵本の読み聞かせという座って前を見て・・・というのが定番だと思っていたが、立って身体全体を使っただけの読み聞かせも面白く、分かりやすかった。語りの人も「どろぼう」になりきって素晴らしかった。

このような、素晴らしい絵本の読み聞かせに出会った子供達は、豊かな感性を持った人になるのだろうと思った。帰りの車の中で、サークルの人達と「私達も手話で読み聞かせしたいね。」「私は語り手が良い。」「何の話がいいかな。」等大賑わいだった。

また、研修会では、他に講演等があったが、地域の聴覚障害者と共に歩むために聴覚障がい者の方達の思いを知る機会でもあった。嫌な思いをした事例がいくつかあげられていたが、自分も知らない間に、障害者に対して行っている言動ではないかと反省させられた。差別をしたり、差別に気づいても何もなかったりする事がないようにと思った。

(人吉・球磨わかぎ 川上由美子)



私は昨年に続き2回目の研修会参加となりました。今回は水俣わかぎの方々と一緒に受付を担当し県内各地より130余名の参加者をお迎えしました。

さて、午前中の東弁護士の講演を聞き、私の中で今まで漠然としていた「差別」に対する認識がはっきりと形あるものに変化しました。「差別を無くそう」というのは確かにその通りと誰もが考える事ではあっても、その真意を本当に理解できているのかどうか分かりません。

特に障害者への差別は人種・信条・性別・身分等への差別とは一線を置き、ただ医学モデルとしての存在、保護の対象でしかなかったという事実を聞き、今までの差別に対する概念の狭さを知りました。障害者が差別の対象ですらなかったという事にある意味ショックを受けました。せめてアメリカ並みに障害者を福祉の問題としてではなく人権の問題として取り組んでいく必要があると考えました。世の中に、子供と老人がいるのと同じように障害者がいて、全ての人が快適に豊かに暮らしていける環境を整えていく第一歩がこの「障害者差別禁止条例」だと捕らえました。

午後からのワークショップでは聴覚障害者が受けた理不尽な具体的事例をもとに話し合いが持たれ、それを発表する中でどんなことが直接差別になるのか、また、間接差別・合理的配慮の欠如とはどんな事なのかを学びました。

また、手話が言語として認知され情報のバリアフリーが確立していく事が待ち望まれます。誰もが何時でも正確で迅速な情報を手に入れ、そして自らの意見を発信していける世の中にするため、私たちが出来る事は何かを考えていく事が大切だと感じました。

差別の真意を理解した上での優しさでなければ障害者への真の理解者にはなれないのだということを思い知らされた研修会でした。

(熊本わかぎ 日野好永)

熊本県「耳の日事業」レポート

熊本県では、以下の「耳の日事業」を県下一斉及び各地域で開催しました。

「耳の日事業 ふれあい'10」

◎熊本県ろう者福祉協会主催：3月7日(日)

熊本学園大学 高橋守雄記念ホール

テーマ；「手話の歴史とこれから」

講師；筑波大学准教授 大杉 豊氏

◎各地域（各地区「わかぎ」）での開催

八代：2月28日（日）八代ジャスコにて
手話による体験発表・手話ソング・手話劇・
NTT お願い手帳の配布等

荒尾：3月7日（日）中央公民館にて
「千手観音」を披露

宇城：3月21日（日）宇土シティにて
ミニ手話教室・手話劇・他地区手話教室の発
表

天草：3月28日（日）天草市美来プラザに
て
県ろう協天草支部創立40周年記念耳の日講
演会「軍艦島について」



はっけん 大分県

3月7日（日）、第42回「耳の日記念」大分県ろうあ者福祉大会が宇佐市安心院文化会館にて、県内各地から約600名の参加者が集い盛大に行われました。

午前中の大会式典後、午後は、全日本ろうあ連盟青年部長嶋本恭規氏による「世界の中のろう者、国際関係について」との演題で講演を行って頂きました。嶋本さんのこれまでの経験、差別について、国際権利条約について等、幅広い内容でした。その中でも特に気を引いたのは、ニュージーランドの教育システム、ろう者と聴者が一緒に学べる学校があるとの話には大変驚かせられました。また、欧州やアジアでのろう者との交流等とても充実した講演で、時間があっという間に過ぎて

しまいました。



アトラクションは「豊川こども太鼓」による太鼓の演奏でした。太鼓を叩くのは4月から小学1年生になる子供たち、竹を叩くのは4歳児たちでした。最初に一人一人、手話でごあいさつ、その可愛いこと、会場からは、一人自己紹介が終わるごとに大きな拍手でした。演奏の方もとても上手く、心地よい響きが会場内いっぱい広がっていました。最後は、子供に人気の「ヤッターマンの歌」で熱く演奏して会場を沸かせてくれました。もう一つのアトラクションは、耶馬溪ひよっこ衆による、ひよっこ踊りでした。テンポよく、面白おかしく踊ってくれたのは、宇佐市から近い耶馬溪のグループ、今日が初舞台というヨチヨチ歩きの踊り子もおり、その踊りのおかしさから会場内は笑いの渦でした。踊り子の年齢は3歳から75歳とまさに老若男女が一体となって楽しませてくれました。

最後は恒例のお楽しみ抽選会。今年は大会冊子の裏に動物等のハンコが押されているのが、当たりとのことで、多くの人が素適な賞品をゲットしていました。当日はやや肌寒い日でしたが、充実した一日を過ごすことができました。



第29回宮崎県手話サークル連絡協議会研修会に参加して

宮崎県手話サークル連絡協議会 (清武手話サークル)嶋田智子

2月28日(日)、新富町文化会館ルピナスみらいにおいて「県サ連研修会」が開催されました。

午前中、2つの講演がありました。前半は宮本真紀氏(NPO デフ Net. かごしま 手話講師)による「CODAである私にとっての手話」でした。宮本氏の生い立ち、CODAとしての経験、日本手話の面白さ・魅力、ろう文化と聴者の文化の違いなどをお話ししてくれました。両親の愛情や、両親への感謝、手話やろう者への愛情がとても伝わってくる講演でした。また私の手話は、「日本語対应手話だ」とよく言われているので、日本手話について、大変勉強になりました。

後半は澤田利江氏(NPO デフ Net. かごしま理事長)による「出会いが教えてくれたこと」でした。デフファミリーで育った生い立ち、情報保障の素晴らしさを知った経験、学習塾で出会った子供のことなどお話ししてくれました。海外旅行や学習塾などでの経験を通じて、全ての原因は「知らない」ということで、「知らない」=「術がわからない」ということなのだ。だからこそ、その都度お互いに確認し理解し、勉強することが大切であること、コミュニケーションが大切であるというお話にとっても感動しました。

お二人は、お互いに様々な出会いや経験を通して大切なものを学び、その学んだことが現在の活動につながっていて、とても素晴らしいなあと思いました。きらきらと輝いていて、素敵でした。

午後は、レベル別手話学習でした。①初心者レベル②経験者レベル③通訳士・通訳士挑戦者レベルに別れての学習でしたが、私は③通訳士・通訳士挑戦者レベルに参加しました。

講師は、午前中に講演していただいた宮本氏で、ビデオ(講演会)の読み取り通訳、聞き取り通訳を参加者が順番に行いながら、学習しました。自分では上半身全体を見てい

るつもりでしたが、手話に集中してしまい、口形を見落としていたことが何度もありました。

今回の教材が講演会の通訳だったので、チームを作り、通訳者へのフォローも含めた学習でした。チームで協力しあうことや普段から通訳者同士がコミュニケーションをとることも大切だなあと感じました。また講師と一緒に参加した先輩方に様々なアドバイスをいただき、今後の学習に役立てたいと思いました。

同じサークルの方も、「楽しかった!」「とても勉強になった」という感想を述べていて、充実した研修会でした。この研修会は県内各地から参加するので、交流の場でもあります。今回、久しぶりに再会した方や初めて会う方と楽しくおしゃべりできたことも、良い思い出です。また来年の研修会も参加したいと思います。



「手話で話そう県民の集い」に参加して

去る2月21日(日)に鹿屋市で開催された「第28回 手話で話そう県民の集い」に参加しました。この集いは、昭和56年5月17日に国際障害者年を記念して開催した「第1回 手話で話そう県民の集い」を引き継いで開いているものです。

第一部が式典になり、大会委員長挨拶や、来賓挨拶、宣言・決議のあと、記念講演がありました。今回の講師は、映画「ゆずり葉」に主演された、庄崎隆志さんでした。映画を撮る前に、演技の為カンナの修行をした事や、高齢ろう者を訪ねたことなどとても楽しく話されました。



午後からも午前を引き続き庄崎さんのミニパフォーマンス「手の詩」がありました。指だけの動きで男女の区別がはっきりわかり、とても驚きました。自分も動かしてみました。とてもまねできるものではありません。ろうの方は本当に指先が器用に動くなあと感じていましたが、庄崎さんはすごかったです。

映画だけではわからない庄崎さんを見るのができ、とても良かったです。来年は、出水市で開催されます。また、ぜひ参加したいと思います。



編集後記

今年は気候がおかしいですね。雪が降ってみたり、風が強かったり、はたまた、半袖の陽気であったり…。お陰で、桜も例年になく、長い期間愛でる事が出来ました。

今年も、はっけん4月号を無事発行できました。ご協力に感謝致します。

九州手話サークル連絡協議会

事務局 〒866-0892

熊本県八代市古閑下町1717-43 前淵洋一

TEL0956-35-2653

発行責任者 中本教博

広報担当者 齊藤勝子(宮崎)

発行月日 平成22年4月30日

